



自由席

コヒンダ・チトラカールさん  
(三ツ川写真)。ネパール青年活  
動調整委員会委員長。ネパール

### 「緑のネパール」日本の援助を

「ヒマラヤのふもとです。王妃から任命され、青少年活  
動の促進や連絡にあたってい  
せん。日本のみなさんに援助を  
お願いしたい」。ネパールで行  
われている青年ボランティア活  
動の指導者がこのほど告白した  
のを機に、こう要請して帰国し  
た。

「森林に覆われているネパ  
ールも最近はずいぶん荒れてい  
る。一世紀前は国土の七五%が  
森林だったのが、今は五〇%に  
減った。たきぎ用に切り倒し続  
けるからです。ほかに有力なエ  
ネルギー源がないため、だれも  
が木に頼らざるをえない」

単に燃料の原料がなくなるだ  
けでなく、水資源や農業にも影  
響する。今後の人口増加も考え  
ると事態は深刻。地球上の各地  
にある森林資源の危機と共通し  
ている。

「緑のネパール」運動と名付  
けた募金キャンペーンの展開を  
決めた。問い合わせや募金の受  
け付けは、東京都港区南麻布四  
ノ九ノ一七 財団法人日本国際  
交流センター内ACT事務局  
(〇三―四四六―七七八一)―  
六。

そこで始まったのが、植林運  
動。苗木はネパール政府が財源  
をまかない、実際の植林は同委  
員会が核になってボランティア  
青年が各地で繰り広げる。  
不足分百十七万円というの  
は、軌道に乗せるまでの雑費。  
七月には、首都カトマンズで国  
内各地の青年リーダーを集めて  
説明会を開き、再び各地に散っ

て植林を繰り広げてもらう。そ  
のための人件費、交通費、通信  
費などが国内で工面できなかった。  
日本側でこれまでに協力を約  
束しているのは、公益信託「ア  
ジアコミュニティトラスト(A  
CT)」(運営委員長・渡辺武  
元)アジア開発銀行総裁。アジ  
アを共通の地域としてとらえ、  
寄金と援助の行き来を交通整理  
する民間機構としてすでに実績  
を重ねている。